

県宝

● じん たい もん つき ゆう こう つば つき ど き 人体文付有孔罎付土器

(南箕輪村)



2018年9月27日指定
所在地／南箕輪村4807
南箕輪村郷土館
所有者／南箕輪村
連絡先／南箕輪村教育委員会
電話0265・76・7007
※レプリカの見学が可能
(事前予約制)

南箕輪村には、県宝に指定されている縄文時代中期、今から4500年前の縄文土器が4点ある。

人体文付有孔罎付土器は

1995(平成7)年に同村久保の久保上ノ平遺跡から出土した。高さは29.9センチで、正面に人をかたどった立体的な人体文様が付けられている。有孔罎付土器は出土数が少なく、特殊な土器と考えられているが、その用途については明らかになっていない。

同遺跡からは「そうしやくがい が もん あさばちかた装飾絵画文浅鉢形土器」も出土した。浅鉢形土器には珍しく土器の周りに装飾絵画文が施され、底が打ち抜かれている。祭祀に使われたものとみられる。

県宝にはこのほか、中央道開削に伴う発掘調査で同村大泉の北高根遺跡から出土した釣手土器が2点あり、県内で発達した「縄文文化」を伝えている。